

平成6年(1994年) 9月30日(金曜日)

世界日報

「日韓トンネル」研究の価値あり

—discusstion 議論

「北東アジアから極東ロシア、そして北太平洋に面するカナダ、北米地域に広大な一大経済圏を構築するにはどうしたらよいか」こんな遠大なテーマを議論している国際会議がある。北太平洋地域研究センター(本部・札幌、中野友雄会長)が中心になって進めて

いる北太平洋国際フォーラムがそれ。折しも今年は同センターが設立されて十年目。とりわけ今回は新たにモンゴルが加わって、米国、カナダ、中国、北朝鮮、韓国、ロシア、日本の八カ国から学識経験者が参加。北太平洋地域の安全と安定を求めて、をサブタイトルに活

発な議論が九月中旬、札幌市内のホテルで開催された。なかでも、トロント・ヨーク大学のポール・エバンズ教授は「一つの国の思惑で他地域を支配する時代は終わった。平和と安定についてもヨーロッパに学ぶのではなく、ヨーロッパとど



もに学ぶと言った方がいい」と指摘。また、基調講演を行った星野進保・総合研究開発機構理事長は「日本は米国に対して四百三十兆円の公共投資を約束しているが、そのうち百兆円くらいの投資を北東アジアに行ってもいいのではないか」と訴える。

一方、フォーラム後のフェアウェル・パーティーで下河部淳・同センター理事長は北東アジアの平和と繁栄という観点から日韓トンネルの意義と研究の必要性を言及。「日本人は無謀だと思えるものを初めから無視してしまう悪いくせがある。日韓トンネルはこれからの北東アジアを考える上で実に研究価値の高いテーマだ」と明言する。北東アジアは欧州と違い文化、人種、言語が全く違う地域だけに、緊密な交流とそれに

Everyday

見合うインフラ整備が必要とされていることは言うまでもない。
文と写真・高橋 英人